

ズバリ こう見る

更なる突っ込みは強気対処 昨年末の安値を意識する!!

PLATINUM 白金



岡地(株) 支店 投資相談部
細井 満氏

ニューヨーク白金期近は、ついに1,400ドル台前半まで下落、底値探りの様相となり、昨年12月29日の安値1,347ドルが視野に入ってきた。

下落のキツカケは、フランス大統領戦のサルコジ氏がオランド氏に敗北、ギリシャの総選挙では与党が大敗し、欧州債務危機不安を抑えた。

ダメ押しとなったのが前述のJ.M.社報告だ。同社は、11年の世界白金需給統計を発表、生産、需要ともに前年に比べ増加したものの、需給バランスは13・4トと2年ぶりの供給過剰とし、12年も引き続き供給過剰になると予想したことが響いた。欧州債務不安が再燃

が再燃したこと。もう一つは、英国の貴金属製錬大手のJ.M.(ジョンソン・マッセイ)社が弱気な内容のレポートを発表したことだ。

欧州債務不安再燃は、せつかく回復しかけてきた世界景気に水を差し、その景気後退懸念による白金の自動車触媒や他産業用需要を減

し、しかも、根が深いことから、白金相場は当面、不安定な動きが続くと思われる。

5月は多くのファンダが中間期決算を迎え、その玉整理に伴い、材料次第では思わぬ安値を連想させる時期にあり、心理的にも弱気傾向になりがちだ。このようななかで、欧州債務不安再燃と弱気な

J.M.社報告のWパンチを受けて、大きく下落したというわけだ。

また、欧州の状況が不透明な状況下、5月前半の急落で白金市場のセンチメントがかなり弱くなつて、下値警戒感が出やすいタイミングに入ってきた点に注意する必要がある。

現象だけみれば、米国の自動車販売台数の増加や日本のエコカー減税補助等による販売台数の増加が予想されている。また、白金の生産コストに焦点をあ

てれば、1オンス、400ドル以下は採算割れといわれ、先行き生産減が見込まれる。

更に、中国やインドなど新興国の現物買いが下支え材料になっていく。しかし、それらはまだ強材料として機能していない。

白金価格に影響を与えるニューヨーク金の下値が確認出来ない状況下で、慎重にならざるを得ないが、ここからの突っ込みは下値を見定め、強気で対処したい。

長期的には上げ途上の修正 戻り一巡後は再び売られる

GOLD 金



岡地(株) 支店 投資相談部
千葉 純平氏

東京金期先は欧州債務不安と円高に足を引く張られ、4,000円を割り込んだ。しかし、結論は長期的に「ダメ押し」を待っての買い拾いが得策だ。

ただし、短期で売り一巡後に4,200円前後まで戻る可能性はあるものの、欧州債務不安は今後も尾を引

る。その4,200円をも下回っているだけに、ヤレヤレの売りに新たな売りが加わり、下値探りの展開になる公算も大きい。

悲観論者は、ニューヨーク金が1,300ドルまで下がると見ているが、ここまで下げるとは思えず、そうなる

終了まで、金価格が高騰する可能性は低い。短期的に反発しても、再度、4,000円を割り込む動きとなる。

内部要因を見ると、東京金の買い値平均は4,350〜4,400円。4月後半の下げで、4,200円前後から、売方の多くがドテン買いに回った経緯があ

高値986・2ドルから30%以上下落した。今回は、フランス大統領選挙でサルコジ氏がオランド氏に敗北したことや、ギリシャの総選挙でEU(欧州連合)の緊縮策に賛成する与党大敗はあらかじめ想定されていたことで、パニック安には陥っていない。もちろん、欧州債務不安は予断を許さないが、最終的に軟着陸するようだと、金の下げに歯止めがかかろう。

られた後は、強材料を模索しながら出直り相場に転じよう。

というのも、今回の金価格の急落と、リーマン・ショック時の急落とは性格を異にして

いるからだ。08年のリーマン・ショックは、『想定されていない危機』で、市場はパニックに陥り、ニューヨーク金期先は7月15日の

また、ニューヨーク金の大きなトレンドが始まったのは05年5月。ここから08年3月の1,014・6ドルまで上昇、同年10月にリーマン・ショックの洗礼を受けた後、11年9月6日に1,911・6ドルまで上昇。そこから新たな3年サイクルに入ったが、まだアップトレンドは続いており、サイクル論でいえば、今回の急落はあくまでも修正安の一環だ。戻り一巡後の安値で買い玉を仕込みたい。